

2021年度 デイサービスひろば 事業所における自己評価結果（児童発達支援）

公表 2022年3月1日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容または改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練等スペースとの関係で適切である	○			
	②	職員配置数は適切である	○		・配置数は良いが、必要な場所に居ない時があるので、声を掛け合っている	・今は人数は足りていると思うが、今後の利用者数の増減によって変えていく必要はある
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備などは、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		・バーテーションを用いた、活動に取り組みやすい環境整備を行っている ・活動場所は複数の使い方をしないようにしている	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		・1日2回の消毒と清掃作業 ・適宜環境調整している	
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している		○	・なるべく多くのスタッフと共有するように心がけている	・サイクルが明確化されていない。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者などに対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向などを把握し、業務改善につなげている	○			
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の開放やホームページ等で公開している	○			
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・オンライン研修への参加 ・定期的実施	
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		・長期、短期の支援計画を意識しながら支援を行っている	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・スタッフ間で相談しながら行っている	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・前回の活動の記録を見ながらスケジュールを組んでいる ・スケジュール作成をスタッフが交代しながら組んでいる	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○			
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・前回の様子をもとに、本日の活動内容を話し合い臨んでいる	
⑱	支援終了後には、職員間で必ず打ち合	○		・必要に応じて行っ		

		わせをし、その日に行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している			ている ・支援終了後、各自スタッフが担当利用者の状況を報告。それに基づく情報の共有をしている。		
	19	日々の支援に関して記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		・活動後、記録を残している。 ・保護者との会話など、必要な情報を細かいことも記録に残している。		
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○				
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○				
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		・必要に応じて行っている		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子どもなども支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○		・対象の児童の利用がない	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○		・対象の児童の利用がない	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			・必要に応じて、園での様子の聞き取り等を行っている	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			・必要に応じて、園での様子の聞き取り等を行っている	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			・自閉症の専門家、臨床心理士に助言をもらい、活動に取り入れている	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や障害のない子どもと活動する機会がある		○		・ほとんどが併行通園の児童である。 ・所属機関がない児童には、子ども園や子育て支援センターの情報をお伝えしている	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等は積極的に参加している	○				
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			・連絡帳を使ったやり取りや、送迎の際に情報の共有を行っている ・活動中話を聞くよう努めている	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		・プログラムとしては伝えていないが、関わり方のポイントを伝えている。 ・普段からペアトシの観点をもって保護者へ助言している	・必要だと思われる方には、活動してきたが、振り返りの会ができていない。コロナの状況を見計らいながら、会を設けていきたい。	
保護者への説明責任等	32	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○				
	33	児童発達支援力イドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○				
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			・活動中保護者より話があれば、その都度話し合ったり、スタッフ間で情報共有し検討し	

					ている ・活動の中で保護者に話を聞くなどしている		
35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○			・コロナで今はできていない。各家庭の環境によるが、オンラインでの実施も考えられる	
36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			・相談があればその都度対応している		
37	定期的に会報等と発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			・法人機関紙を配布 ・不定期だが、行っている。		
38	個人情報の取扱いに十分注意している	○			・記録等書類の保管は施設できる場所で行っている。		
39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○					
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		・地域交流を目的にポッチャを購入（コロナ禍で地域交流は実施できていない）	・コロナが落ち着けば、実施を考えたい	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対策マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○			・定期的に訓練を実施している。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			・定期的に訓練を実施している	
	43	事前に、服薬や予防接種てんかん発作等の子どもの状況を確認している	○			・服薬に関しては、現在各家庭に確認しているところである	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示所に基づく対応がされている		○		・医師の指示書ではなく、保護者からの情報で対応	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○				・ヒヤリハットを実施しているが、書類が出るのが少ない。出しやすい雰囲気づくりをしていく必要がある ・共有はできている
	46	虐待を防止するため、職員研修機会を確保する等、適正な対応をしている	○			・定期的実施	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		○		・現在身体拘束を行っていない。 ・必要な児童がいない	・必要が出てくれば、適切な手順を踏み対応していく

【スタッフで話し合い、出てきた改善目標（保護者等からの事業所評価含めて）】

- ・PDCAサイクルの明確化。
- ・ヒヤリハットを出しやすい雰囲気を作って、事故のリスクを減らしていく。
- ・こちらが周知できていないことで、保護者の皆さんに伝わっていないことがたくさんある。連絡帳、広報誌を通して伝えていく。
- ・保護者同士のつながりを求めておられる。ご家庭にインターネット環境があるかどうかも確認しながら、可能であればオンラインでの保護者の会を実施していく。
- ・新規の利用のご家庭も含めて、障害特性に応じた支援をしていることを改めてお伝えしていく。
- ・職員の専門性を高めるために、発達障害に関する研修を受講し、全スタッフで日々の支援へどう生かしていくか検討していく。また実施した支援に関して、評価・改善・計画・実行のプロセスを踏み、より利用者の生活の質の向上を目指す。
- ・ここに意見が出されていない方の意見も日々の中で吸い上げていく必要がある。